

向学館通信

2009・1・27

学年末テストにむけての準備スタート！

今から期末テストの対策を始めれば成績アップはまちがいないでしょう。

小6の人は、はやく6年生の勉強をやり終えて、中学の準備に入りましょう。

中3生と大学受験生は、もうひと頑張りを！

合格、おめでとう！

同志社女子中学 合格 Y・Hさん(葵小)

洛北高校附属中学 合格 T・Yくん(葵小)

洛北高校附属中学 合格 N・Mくん(ノートルダム学院小)

なお、洛北附属中学にはもう1人が受験しました。試験の当日、実力が発揮できず残念でした。

理科や社会は受験にとっては極めて重要科目

高校受験では主要5教科で受験するのが普通ですが、どの科目も点数(ウエイト)は同じです(たまに例外もありますが)。塾生にも、英数は好成績だが、理・社がわるいために平均点を低くして志望校合格が心配というケースは、かなりあります。

向学館では受験前の中3生に対して、理科、社会の集中学習(一斉授業で)を行っています。12月から1月初めにかけて、今回は理・社とも合計7回の授業です。

毎年、中3生にとって、理科・社会の3年分の総復習を短期間にやるのが、大きな負担です。この中3生の苦労をいくらかでも和らげようと、この集中学習を始めたわけです。

限られた回数で効果を上げようとしますから、過去の入試問題の出題傾向を調べ、「出やすそうな」ところを選んで学習することになります。しかし、この「出やすそうな」ところは、「難しい単元」で「暗記しにくい」所でもあります。理科の場合、電気、化学変化、天気、宇宙、力と運動、火山と地震、人体の仕組み、などなど、難しい単元がたくさんあります。

名称を覚えることを「知識」と勘違いしている生徒が多い

これらの単元はみな、単純な「暗記」で頭に入るようなところではありません。

たとえば、「天気」の単元で「飽和水蒸気量」というのが出てきます。これは、一定量の空気中に水蒸気がどれだけ溶け込めるかという問題です。温度が上がるほど溶け込める水蒸気が増えていきます。そして、水蒸気量と温度が相関するグラフが、教科書にも参考書にも載っています。このグラフの意味が分かると、冬の朝、窓ガラスに水滴がたまる理由も、夏の暑い時にガラスに氷水を入れるとガラスに水滴ができる理由も、また、上空で雲ができたり、雨がふる理由も同時に分かり、新しい発見に驚きや喜びを感じます。そして、こうした理解に達すると頭にしっかりと定着し、忘れません。ところが、多くの生徒は、言葉を暗記することを「勉強だ」と勘違いしているようで、「覚えるのが難しい」と感じてしまうようです。そして、理論的に説明しても、「暗記ですまそう」と「決意」している人の耳には全く理論は届きません。強固なバリアーがあって、論理の受け入れを拒んでいるような感じです。

太陽系の問題で、月の満ち欠けや金星の見え方などが出てきますが、これらも根拠を理解しようとせず、やみくもに「覚えたがる」生徒が多いのです。これは、太陽と地球と月や金星の位置関係が分かり、惑星が太陽の光の反射で明るいということを知っていれば、そんなに難しいことではないと思います。しかし、「暗記しよう」と「決意」している人には、きわめて覚えにくいことだと思えます。

テレビのクイズ番組では、名称を当てれば「正解」・・・これは勉強ではない！

いま、学力の国際比較などで、日本の子供たちの「考える力」や「理解し、応用する力」などが低下しているという指摘があります。テレビの見すぎで、クイズの「正解」みたいな薄っぺらな「知識」を詰めこむことを「学習」と勘違いしているのではないかと思います。物事を成り立たせている根拠や理由、また、それが説明されている道筋が正しいかどうかといった論理的な判断力などを、理科を通じて育成してほしいのです。だが、考えることを嫌がる風潮が十年前に比べて一段と強まっているような気がします。暗記ではなく、論理的に理解を！